



人口減対策

県創設の対策交付金 有効活用を 作業部会立ち上げ11月の審査会に

はまむら み か
濱村 美香 議員

問 若者定住や移住施策に欠かせないのは宅地の確保だと考える。本町は

審査が必要な連携加算型の交付申請に当たり庁内の関係部署で作業部会を立ち上げ、課題の整理や新規事業について協議を進めている。県の担当課とも情報交換やヒヤリングも行いながら事業計画を取りまとめ、11月の審査会に提出する方向で作業中だ。

答 渡辺 企画調整室長
人口減少対策総合交付金は、「若者の増加」「婚姻数の増加」「出生数の向上」「共働きの共育での推進」を目標に各市町村が取り組む新規または拡充事業に対して交付されるものだ。

問 県は加速する人口減少に歯止めをかけるため人口減少対策総合交付金を創設し、令和6年から9年までの4年間、集中的に取り組む。事業計画の作成は進んでいるか。

老朽住宅の除去の制度はあるが、該当しない住宅については除去できず空き家のまま放置することになる。空き家を壊し宅地の確保ができるようこの交付金の有効活用ができないか。

答 渡辺 企画調整室長

現在、事業計画作成中であり、詳細は公表できないが、課題となっており、重点的に力を入れる。バーでできるような策を取る。

問 今年の8月、巨大地震注意の臨時情報と台風10号接近による高齢者等避難が発令された。

台風接近の際に、一般避難所をいくつか訪問した。住民が2日〜1週間の生活に耐えうる環境整備は十分だったか。

答 村越情報防災課長
臨時情報では8日間
台風では3日間避難所を
開設。避難される方は必
要なものを自身で準備し
ての避難を呼び掛けた。
避難所の中には、床が
硬く横になることが困難
な所やベッド数の不足、

風呂やトイレの問題等があった。暑さ寒さの課題も含めて、今回上がった課題の改善に向けて検討する。

問 今後、人口減対策まちの防災など、次に渡すタスキに込める思いは

消防団員を中心に夏祭りで神輿を担ぐ若者たち（令和6年7月 出口地区）



答 松本町長

スピード感を持った対応と、「知恵こそ無限の資源なり」という言葉がある。これからは各自治体の知恵比べとなる。防災については、取り組みの後半部分となり、安全な住宅地の形成、耐震臨時情報の対応等になる住民と協議し、知恵を借りながら基本的考え方を整理し、指針を決め、ぶれない対策をしっかりとっていく必要がある。

避難所運営

状況を応じ 場所の選定や環境整備を
課題を整理し 改善に向けて検討

問 今年の8月、巨大地

答 村越 情報防災課長

風呂やトイレの問題等があった。暑さ寒さの課題も含めて、今回上がってきた課題の改善に向けて検討する。

問 今後、人口減対策
まちの防災など、次に渡
すタスキに込める思いは

答
松本町長

スピード感を持った対